

保険薬局のトレーシングレポートによる処方提案と提案採用後の経過解析

総合メディカル（株） そうごう薬局 荒戸店¹⁾

安田 賢二¹⁾

【目的】薬剤師が、薬物有害事象の恐れがあると判断した処方や症状改善後も漫然投与されている処方などについて、医師へ見直し提案・検討を依頼する手段としてトレーシングレポート（以下 TR）は極めて重要なツールである。先行研究調査では、TR の処方提案率は約 20%、その採用率は約 65%との報告もあるが、採用後の経過を追って効果を検証するには至っていない。そこで今回はどのような TR の提案が採用され、それが問題点解決に繋がったかを調査・検討したので報告する。

【方法】福岡中央ブロック 13 店舗で 2021 年 11～12 月の期間の TR529 件のうち、処方提案を行った TR を抽出した。処方提案に対する採用の有無、採用後の問題解決の有無について薬歴を元に調査した。処方提案ありの TR を処方提案の理由（服用状況、重複・相互作用、副作用（以下 SE）、副作用以外の症状変化（以下症状変化）、ルールからの逸脱、その他）と、処方提案内容（服薬支援、増量・追加、減量・削除、処方変更）についてそれぞれ分類分けを行った。

【結果】処方提案率は 19%（98/529 件）、処方提案の採用率は 59%（58/98 件）、採用された TR が問題解決につながったのは 84%（49/58 件）だった。また、処方提案採用と問題解決につながった提案理由を見ると、両者とも SE に関するものが最も多かった（採用 30 件、問題解決 23 件）。

【考察】処方提案率・採用率は、先行研究と同程度であった。処方提案が採用され、問題解決に至ったケースは 84%と、処方提案の有用性を示す結果となった。提案理由は SE、症状変化が全処方提案の約 3 分の 2 を占め、患者の体調変化を根拠に多くの処方提案が行われていた。さらに、SE と症状変化の 2 者の採用率を比較したところ、SE：68%、症状変化：33%と大きな差が見られた。同じ体調変化でも、副作用頻度や薬物動態などの薬学的判断を含み、根拠を持って副作用と想定される事については、提案通り医師も処方変更を行っていると考察した。